

HEAD LINE 3 第63回学園祭 -withコロナ 初のリモート開催-



新型コロナウイルスの影響で、開催すらも危うかった学園祭があっという間に終わってしまいました。例年とは全く違い、学校でのリモート開催という初めての試みでしたが、生徒会役員と学園祭実行委員をはじめとする、多くの人たちの努力と協力のお陰で大きなトラブルもなく無事に終えることができました。多くの制限の中で、思い通りにならなかったこともあったと思います。それでも最大限の力を出し、学校行事最大のイベントを最高の思い出にできたことをうれしく思っています。

生徒会長 内田葵



PICK UP!! ~インターハイ・国体に出場する選手を支える立場から~



私は8月に福井で行われたインターハイに、奥山歩夢選手のセコンドとして参加しました。インターハイに向かうにあたり、私自身が出られなかつた悔しさを感じながらも、サポート役としてベストを尽くしたいという気持ちで臨みました。セコンドは、選手の心身のケアをすることが重要なので、試合当日はいつもよりも声掛けや準備に気をつかいました。インターハイを終え、全国大会で活躍できる選手がいるという恵まれた環境で部活動ができていたことを改めて感じることができました。インターハイというレベルの高い大会での経験を後輩に伝え、高い目標をもってがんばってほしいと思います。(3年日原岳留)

この状況下で無事に国体関東ブロック大会が開催できたことに感謝しながら、自分ができる精いっぱいのサポートができたと思います。試合に関することだけでなく、選手とのコミュニケーションを大切にすることを心掛け、メンタルケアなどを行うように努力しました。また、コロナに感染しないよう、予防を徹底することができてよかったです。(3年齋藤愛生:後列左)

4日間の国体関東ブロック大会はあっという間に終わってしまったなと感じました。結果は負けてしまいましたが、選手のみんなが全力で一つ一つの試合に取り組んでおり、マネージャーも含めてよい思い出がたくさん作されました。

選手のみなさんお疲れさまでした。(3年深澤萌々花:前列左)



3年生は最後の、1、2年生は初めての学園祭でした。テスト期間が重なり、準備期間もギリギリだったけど、みんなで協力して、どの学年も最高のものにできたと思います。終わったときは、みんな達成感に溢っていました。リモートによるハプニングもありましたが、みんなの笑顔を見たときに無事開催できてよかったです。

学園祭実行委員長

柳澤隆一



HEAD LINE 4

高校生商業研究発表大会 -甲州市活性化プロジェクト-



商業科の授業の一環として、「甲州市の活性化」をテーマに様々な研究を行いました。今回の大会では、その成果について発表し、優秀賞を獲得しました。

写真は左から、藤原彩乃さん、古屋凜華さん、市村祐人さん、河野拓海さん、渡辺宙さん、竹井哉斗さん

私たち7月に行われた生徒商業研究発表大会に出場しました。準備期間では、実際に先生方の前で発表をし、アドバイスをいただき練習に励みました。特に、緊張によって、表情が硬くなり話すスピードも速くなってしまったので、笑顔でゆっくり話せるように練習を重ねました。大会当日は、ジェスチャーも使い表現力を豊かにすることを意識して発表することができました。結果は今までの練習の成果や、先生方の支えのおかげで、全体で2番目に良い「優秀賞」を受賞することができました。練習の成果が報われとても嬉しかったです。

今後も、甲州市の活性化に向けて活動を続け、さらに発展する街づくりに貢献していくたいと思います。

商業科 市村 祐人

EZ COLUMN 1 東京オリンピック聖火ランナー

6月26・27日に、東京五輪聖火リレーが山梨県で行われ、2日目の昨日、本校1年生の手塚類さんが聖火ランナーとして甲州市を走りました。



手塚さんは、「すごく緊張しましたが、沿道でたくさんの方が応援してくださり、大きな力をもらいました。また、走り終わってから聖火トーチをたくさんの方に持ってもらうと、みんなが笑顔になって嬉しかったです。」と、話してくれました。

手塚さんは、卓球女子団体代表の平野美宇選手を応援したいという思いから、聖火ランナーに参加する決断をしました。

そして、この素晴らしい貴重な経験をとおして、たくさんの人と繋がり笑顔を届けることができました。



EZ COLUMN 2 地域への参画 高校生議会

8月に高校生議会が山梨県議会議事堂で開催され、私は「やまなし」地域ブランドの価値向上について提言をしました。県政で行っていることをもっと県民に知らせるべきであり、私たちも興味を持つことが発展につながるとの思いを伝えてきました。

ここでの提言は山梨の今後に関する提言でしたが、一般的に若者の政治に対する関心は高いとは言えない状況にあります。過疎化や経済の落ち込みなどを打開するためには、私たち若者がもっと政治に興味を持ち、まずは選挙に行くことから始めることが大切であると感じました。

2年 廣瀬 彩夏

